



金 鶏

令和3年9月7日
金沢小学校
学校便り No.10
(文責 内藤)

2学期が始まって3週目。コロナ感染の心配に加え、大雨で今週はスタートから大変でした。でも、子どもたちは元気いっぱい学校生活を送っています。毎日、そんな子どもたちの笑顔を見ると本当にほっとします。このまま、何事もなく毎日が送れますようにと、祈るような気持ちで過ごしています。

人ごとではない！コロナウイルス感染

コロナウイルス、本当にしぶといです。流行り始めた頃は「夏には収束するだろう。」くらいの気持ちでした。夏になっても収束の気配が見えないと「きっと来年になれば前のように戻っているだろう。」とっていました。しかし、そんな願いもむなしく、2年目を迎えた今でも一向に収束する気配は見えません。それどころか、ワクチンに対抗するかのようにウイルスは変異し、ついに安全だったはずの若い人や子どもたちにも迫ってきました。

感染対策のため、子どもたちもいっぱい我慢をして、今まで乗り切ってきました。しかし、今回の変異ウイルスの猛威は今までのようにしっかり感染対策をしても安心とは言えない状況となっていました。

どこかよその地域のことではありません。ニュースや新聞でも報道されているように、近隣の地域でも子どもの感染が確認されています。金沢小でもいつそういう状況が起きても不思議ではありません。でも、こういうときだからこそ、そわそわせずに落ち着いてしっかり現実を受け止め、対応していきたいと思っています。

今、大切な3つのこと ★1 感染対策、よりいっそう

基本的には今までと同じです。基本的な対策を、より気を引き締めて行っていきます。特に、9月3日～12日までは県民あがての「命と暮らしを救う集中対策機関」となっておりますので、しっかり対策し、学校での感染が広がらないように努めていきます。そのためにも前からお願いしておりますように、本人やご家族の発熱、風邪症状、濃厚接触者となったりPCR検査を受けられたりした場合は登校を控えていただき、学校までお知らせください。学校でも子どもたちの健康状況を丁寧に見ていきたいと思っております。ご理解、ご協力をお願いいたします。

★2 学びの保障

万が一のことが起きても慌てないように、子どもたちが学びを止めなくて済むように、今、学校では全力で取り組んでいます。

明日は、以前からお知らせしましたように、オンライン授業を実際に試す日となっております。学校の中でも試し、家でも試し、オンライン上であっても子どもたちが先生や友だちと顔を合わせて少しでも充実した学びが進められるようにしたいと思っています。

今後も、宿題や2回目のオンライン授業など、タブレットを持ち帰る機会をとり、使うことになれていくよう計画していきます。



★3 差別偏見を生み出さない取り組み

万が一のことが起きたときに心配されるのが誹謗中傷や差別です。一番悲しくて辛いのは感染した本人や家族です。そんな悲しんでいる人に追い打ちをかけるようなことは絶対あってはならないし、たとえ感染しても安心して治療し、笑顔で仲間のところへ戻れるよう、指導を継続していきます。このことにかかわって、今日は校長講話をしました。全文を掲載します。是非、お家でもお子さんと話し合い、差別誹謗中傷がこの金沢小で絶対におきないように、ご支援をお願いいたします。

＜校長講話＞

これから、校長先生のお話を始めます。今日のお話は、とても大切なお話なので、しっかり聞いてください。今日はコロナウイルスのお話です。

みなさん、コロナウイルスがあらわれてからもう2年目となりました。マスクをするのも、机の間を開けるのも、黙って給食を食べるのも、校長先生が朝、健康チェックカードを見せてもらうのも、友達とくっついたり、顔を近づけていっぱいお話ししたりすることができないのも、もう、当たり前のようになりましたが、皆さん、よく我慢してきましたね。今まで本当によく頑張ってきました。皆さんがこうして我慢して生活してきたおかげで今日まで、毎日先生や友達に会ったり、勉強したり、遊んだりすることができました。

しかし、夏休みの後半あたりから様子が変わってきました。コロナウイルスが、うつりやすく変身してきたのです。同じように気をつけていても今までなら大丈夫だったのに、今度の変身したウイルスでは簡単にうつってしまうのです。それに、今まではうつりにくかった子どもや若い人もコロナウイルスの病気にかかりやすくなってしまいました。

今、全国で子どもや若い人の患者さんがものすごく増えています。どこかほかのことではなく、この近くでも子どもや若い人でコロナにかかってしまった人が増えてきました。十分気をつけていたのかかってしまったのです。つい、昨日まで一緒に遊んでいた友達が、突然熱を出して休んでしまうことが、この金沢小にだっていつ起こるかわかりません。

そこで、皆さんに約束してほしいことがあります。それは、コロナにかかってしまった人やその近くで看病する人などを絶対にいじめたり差別したりしないということです。

誰だって、病気にはかかりたくないから、コロナウイルスが自分の体の中に入ってほしくないと思うのは当然ですよね。不安や心配な気持ちもよくわかります。でも、実は差別やいじめは、病気になるよりも怖いかもしれないと校長先生は思います。病気にかかりたい人はいませんが、一生病気にかからない人だっていませんよね。皆さんも風邪をひいたりおなかや頭が痛くなったりして病気にかかったことがあるでしょう。そのとき、「なんで病気にかかったんだ!」「近寄らないで!」「自分が悪いんだよ」などと言われたらどんな気持ちになるでしょう?

今回の新型コロナウイルスの病気では、不安や心配からそんなことを言うってしまう人もいます。直接、言わないにしても、「あの人、コロナにかかったらしいよ」とか、「〇〇の地区でコロナになった人がいるらしいよ。」とか、人から聞いたことを本当か確かめもしないで他の人に言いふらしたり、こそこそ話したりすることも、いじめや差別と同じです。言われた人はすごく傷つきます。病気はなおるけれど、心の傷はずっと残ってしまうものです。

どんなに気をつけていても今度の変身したコロナはうつってしまう可能性が誰にでもあります。自分や自分の家族だって同じです。「自分さえ病気にかからなければいい。」などとみんなが自分のことだけしか考えないでいたら、この病気に立ち向かうことはできないと思います。不安や心配な気持ちがある今こそ、みんなで助け合い、協力しあっていかななくてはなりません。

自分でできるかぎりの対策をしっかりして今まで以上に気をつけて生活し、それでもかかってしまったら、かかってしまった人が安心して早くなおせるように、そして治ったらまた一緒に仲良く過ごせるようにやさしいことばをかけ、いじめや差別、うわさ話などは絶対にしないようにしましょう。約束してください。

これで、校長先生のお話を終わりにします。